



第355号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086) 420-1311



カット：
本多紘子

お盆に寄せて



八月は旧暦のお盆です。昔は都会に働きに出ていた人が、御先祖を偲ぶという名目で田舎の親兄弟と再会するために、帰省ラッシュがあり、列車も満席、高速道路も混雑し停滞しても、故郷へ往復する大移動が有りました。親が亡くなると故郷が遠くなったという話しも聞きますが、皆様八月のお盆の時期はいかががお過ごしでしょうか。

近頃は高齢者が積極的ににお寺で説法を聞かなくなり、若い人もお寺に親しみが薄れ、寺離れをするのは寂しいですね。交通安全の祈禱や安産の祈禱などには寺参りをして、人生を深く見つめ、生きる意味、死んでいく意味を深く考える教えに触れないのは悲しいな。老いることにも意味を見だし、病むことにも意味を見いだそうよ。インドの国では、人間のことをマヌシャと呼び「良く考えて行動するもの」と表しています。人間らしさとは何か、常に問い続けたいものです。

お盆の行事は、一般的には8月12日の夜に先祖の霊が帰ってくるので迎え火を焚き、慰め、供養して、16日夜に送り火で帰ってもらう行事だと言われていますが、浄土真宗ではそのように説かれません。先祖はお盆の時だけ帰ってきて、供養しないと子供にたたるような、恐れの対象ではなく、いつも浄土から見守り導いて下さっている方として

て受け止め、先祖の御恩を偲び、仏様の教えを聞く日なのです。

お盆という呼び名は、ウランバーナというインドの言葉に由来しています。ウランバーナを音写して孟蘭盆、それを省略してお盆となりました。このウランバーナは「倒懸」と訳され、「逆さづり」という意味です。私たちは知らぬ間に餓鬼道(限らない欲望)の世界を歩んでおり、やがて欲望が満たされないと逆さづりにされるほどの苦しみの世界に落ち、もがき苦しみますが、果てしない欲望の餓鬼道の世界から救われる行事が、お盆の行事だったのです。

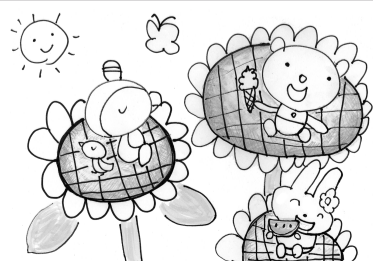
『孟蘭盆経』というお経に、こんな話のついでに、お釈迦様の弟子に目連尊者という方がいました。目連尊者のお母さんは、たいへん目連のことを可愛がり、おいしい食べ物が入ると、他の子には隠すようにして目連に与えていました。とても優しいお母さんでしたが、やがて亡くなります。目連が仏弟子となつて修行が深まり、ある日に母のことを思い出し、死後の母はどうなっているのかと思いを巡らします。心に浮かんだのは骨と皮にやせ衰えた母の姿でした。それは我が子だけを大切に「貪りの心」の報いとして示された餓鬼道の世界の姿でした。目連は何とかして母を助けようと思いましたが、母に食べ物を捧げても、食べ物は炎となつて、母を余計に苦しめます。

悲しみに暮れた目連は、お釈迦様の所へ行き、母の救われる道を尋ねます。するとお釈迦様は、お前の母は我が子可愛さのために餓鬼道に墜ちたのだ。だから目連よ、雨期で勉強している学僧たちが8月15日に学習会が終わるので、その日に僧侶たちを供養すれば、あなたの母は救われると説かれました。その通りにすると、母が餓鬼道の世界から救われ、目連は飛び上がって喜びます。それが盆踊りになったという説もあります。お盆は、僧侶供養の日でもあるんですよ。

今、世界の国は互いに支え合わなければ暮らせません。自分の国さえ、自分さえ良ければという自己中心は餓鬼道です。やがて争いを生み地獄となるので、貪りの心を何とかしたいな。合掌(奥原 曇龍)

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

『貪りの心が地獄造り出す 餓鬼道離れ人が人になる盆』 どんりゆう



カット：
奥原 綾

ともしび説法

日時・八月二十日「火曜日」 午前十時から昼十二時頃まで。
九月 五日「木曜日」 午前十時から昼十二時頃まで。
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話 086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺 倉敷 検索](#)



お釈迦様ものがたり 34

お釈迦様の最初の説法の内容は、人間の歩むべき正しい道である「中道」(両極端を離れた道)と人生の本当の姿とさとりの道への道を明らかにした「四諦八正道」の教えです。

四諦とは「四つの真理」という意味で、具体的には「苦諦」「集諦」「滅諦」「道諦」で苦集滅道の四つの真理のことをいいます。先月号で、第一の「苦諦」と第二の「集諦」とを説いたので、第三の「滅諦」に入ります。

人生は苦しみであり(苦諦)、その苦しみの原因は身を煩わし心を悩ませる煩惱である(集諦)と見抜かれたお釈迦様は、三つ目の真理として「滅諦」を説かれました。苦しみの原因である煩惱を滅した境地こそが、涅槃(さとりの世界)であるという教えです。

「涅槃」という言葉は、「涅槃像」という言葉で聞かれた方もあるでしょう。「涅槃」とは梵語ニルヴァーナの音写で、吹き消された状態という意味です。煩惱の火が吹き消された、さとりの境地のことを言います。

煩惱は、自己中心の心から起こるもので、心身を悩まし煩わせるものです。煩惱の数は百八と言われますが、これは数え切れない多くを表しています。また「三毒の煩惱」という表現で、「貪欲」「瞋恚」「愚痴」の三つで表す場合もあります。自分にとって都合のいいものを貪り求め(貪欲)、都合の悪いものに怒る(瞋恚)、このように自己中心の見方しかできず、真実が見えてない愚かさのことを「愚痴」と言うのです。三毒の煩惱によつて、他人を傷つけ、自ら傷ついている私たちの現実を滅すれば、涅槃の境地です。

四つ目の真理である「道諦」とは、人生の苦しみの原因である煩惱を滅する真理の道を「八正道」として説かれました。八正道とは正しく物事を見、考え、正しい言葉、正しい行為や生活、正しい努力等を言い、涅槃に至る道を示されたのです。合掌 (奥原豊龍)

盆が来た亡き父母偲びともしびをささげて参る故郷の寺 田辺多恵子



竹下家とどんりゅう師

ともしび法話

八月はお盆月。心光寺で一番忙しい月です。残暑きびしい猛暑で、皆様方お身体の調子は如何でしょうか。

今年は八月十三・十四日の午前に、お寺の本堂で合同の盆参りと初盆参りも予定しています。住職も汗水たらし参ります。心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

山口県の出身ですが、父の死を縁として曇龍先生にお参りいただき、気さくに説法を聞いています。延命治療や尊厳死の問題についても深く学びたいと思っています。倉敷市亀島 磯永 充利

生きることに死にゆくことも意味がある。自分の花を咲かせて散りゆく。浄土ではすべてが光り花が咲く。悲しみ苦しみをすべてが光る。倉敷市西富井 網本 健二

盆が来た亡き父母しのび妻しのぶ。儚き人生感謝で生きる。寂しさは心の迷いと思えども。寂しさに負けて演歌をうたう。倉敷市中島 山田 孝治

ともしび説法

日時・八月二十日「火曜日」 午前十時から昼十二時頃まで。

九月 五日「木曜日」 午前十時から昼十二時頃まで。

場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて

電話・(086)420-1311 駐車場有り

(宗派をとわず、まじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

○ともしび説法・お寺の行事予定

十月 十日(木)・午後一時から午後四時頃・早高の本堂。

十一月 三日(日)・午前十時半から午後四時・早高の本堂。

ピアノ・サクソフォン演奏、報恩講法要儀式、仏教講演。

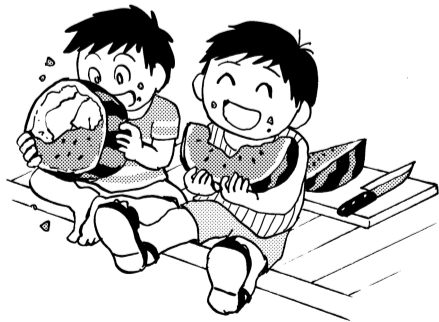
☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。

ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方の費用がかかります。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)

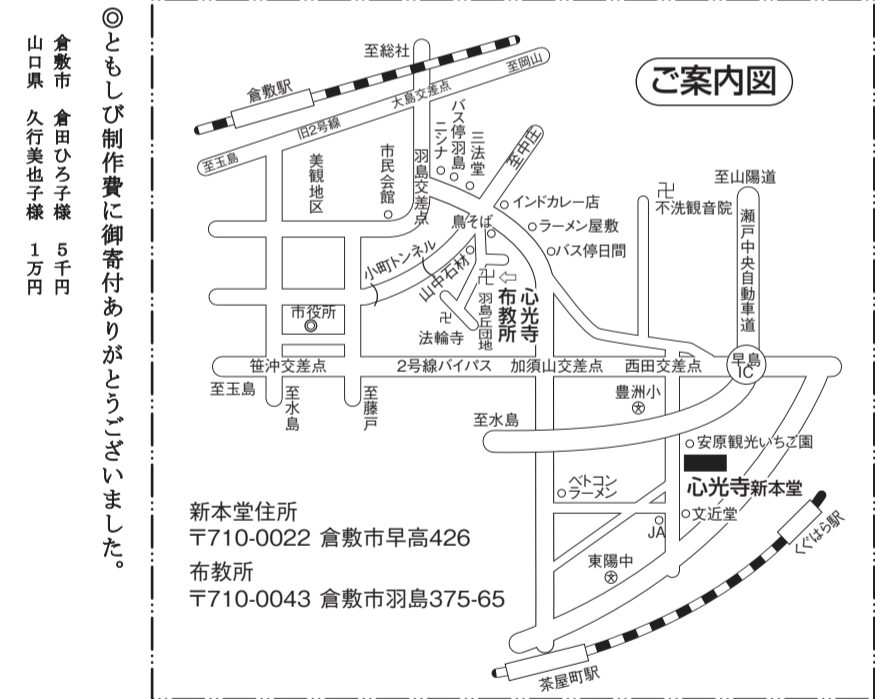


こころの詩

お盆がやってきた寂しさとなつかしさ。死に別れた人たちを偲びながら。すぎゆくときの速さに驚く。先祖様を忘れて生きる。粗末な現代人よ、人とは何だ。死んでも誰かの心に生きてるよ。



カット:吉岡美枝



新本堂住所 〒710-0022 倉敷市早高426
布教所 〒710-0043 倉敷市羽島375-65

◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。

- 倉敷市 倉田ひろ子様 5千円
- 山口県 久行美也子様 1万円

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんに紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426

浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「355号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法の日には、茶屋町駅西口に12時30分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡を下さい。合掌 心光寺 総代長 三村健